

「させぼ温州」の定植 2 年目 3 年生樹の樹冠拡大を図る側枝処理法

[要約] 「させぼ温州」の定植 2 年目 2 本仕立て 3 年生樹において、100 cm 以上に伸長した主枝は側枝を付けずに頂芽 1 本を生育させると、主枝長は 2 メートル以上に伸長する。側枝を 10 cm 及び 20 cm 間隔で発生させると、主枝は約 160 cm に伸長し、葉数が増加する。

長崎県果樹試験場・常緑果樹科

専門

栽培

対象

果樹類

分類

指導

平成 12 年度長崎県果樹試験場業務報告

[背景・ねらい]

させぼ温州の定植 2 年目 3 年生樹における側枝の発生程度が樹冠拡大と主枝の伸長に及ぼす影響を明らかにし、枝の管理法を検討する。

[成果の内容・特徴]

- ① 主枝長は、側枝を発生させずに頂芽 1 本に制限して伸長させた区が 2m 以上になり最も長い。側枝を 10 及び 20 cm 間隔で発生させた区は、やや主枝長が短い約 160 cm には伸長する (表 1)。
- ② 主幹径は、側枝を発生させた区が側枝無区よりやや大きい (表 1)。
- ③ 葉数は、側枝 10 cm 間隔区が葉数増加率が高く、最も多い (表 1)。
- ④ 2000 年の主枝 (当年枝) の年間伸長量は、側枝無区が側枝を発生させた区より 50 cm 以上長い。また、発生時期別の枝の伸長量はいずれの部位も側枝無区が長い (表 2)。
- ⑤ 側枝を発生させた区では、20 cm 前後の枝が多く発生し、側枝 10 cm 間隔区が 1 樹当たり枝数が 49.2 本と最も多い (表 3)。

[成果の活用面・留意点]

- ① 定植 2 年目に側枝を発生させるためには、初年目に芽かきを行い頂芽を 1 本に制限し、十分に主枝を伸長させておく必要がある。
- ② 主枝の伸長を促すためには、定植 1 年後に基部付近の主枝以外の枝を、予め切除しておいた方がよい。また、比較的弱い枝を残す場合には基部付近の枝は強くなりやすいので、枝を引き下げるなどの処理が必要である。

[具体的データ]

表1 「させば温州」3年生樹の側枝の発生程度と主幹径、主枝長及び葉数

処 理	主幹径		主枝長		葉 数		
	99.12 (mm)	01.1 (mm)	99.12 (cm)	01.1 (cm)	99.12 (枚)	01.1 (枚)	増加率 (%)
側枝 10 cm 間隔	14.1	27.5	105.8	155.7	194	911	469
側枝 20 cm 間隔	14.1	27.5	102.1	159.3	228	594	260
側枝無	16.1	25.3	113.0	219.2	255	210	82

注) 主幹径は接ぎ木部 5 cm 上を測定
主枝は 2 本仕立てとした

表2 「させば温州」3年生樹の側枝の発生程度と主枝（当年分）の伸長量

処 理	2000 年伸長量			
	春 枝 (cm)	夏 枝 (cm)	秋 枝 (cm)	合 計 (cm)
側枝 10 cm 間隔	20.0	22.9	31.6	74.5
側枝 20 cm 間隔	23.0	26.1	31.2	79.8
側枝無	38.0	36.0	61.8	136.2

注) 2001 年 1 月調査

表3 「させば温州」3年生樹の側枝の発生程度と長さ別枝の発生数

処 理	5 cm 未満 (本/樹)	5 ~ 20 cm (本/樹)	20 cm 以上 (本/樹)	合 計 (本/樹)
側枝 10 cm 間隔	3.7	27.2	18.3	49.2
側枝 20 cm 間隔	1.5	11.8	11.8	25.2
側枝無	0.0	0.0	0.0	0.0

注) 2001 年 1 月調査

[その他]

研究課題名 : させば温州の早期樹冠拡大と高品質果安定多収技術
 予算区分 : 県単
 研究期間 : 平成 12 年度 (平成 11 年 ~ 14 年)
 研究担当者 : 古川 忠
 発表論文など : なし